

2024 JFFID 日本代表候補合宿 [マッチレポート] V S 宇都宮短期大学附属高校

日時	2024年4月27日 15:00					試合形式	35分×3				
会場	さくらスタジアム					ピッチ状態	天然芝				
JFFID日本代表			6	3	1set	0	宇都宮短期大学附属高校				
				1	2set	0					
				2	3set	0					
警告・退場	3set	2set	1set	チーム合計			1set	2set	3set	警告・退場	
	12	8	8	28	シュート	2	0	1	1		
	2	2	0	4	GK	17	2	7	8		
	5	2	3	10	CK	1	0	0	1		
	0	1	2	3	直接FK	8	4	3	1		
	0	1	0	1	間接FK	4	2	1	1		
	0	1	0	1	(オフサイド)	4	2	1	1		
	0	0	0	0	PK	0	0	0	0		

【日本】

1 set



2 set



3 set



【宇都宮短期大学附属高校】

1 set



2 set



3 set



【得点経過】

■ 1 s e t

- 1 分[日本] センターライン付近の右サイドで受けた横井が、前方の犬塚にグラウンダーでのスルーパス。パスを受けた犬塚がドリブルで前方に運び、PA エリア内に侵入し、右足でシュート。
- 1 3 分[日本] 福原が PA 内から PA マーク付近に走り込んだ梅村にグラウンダーのパス。ボールを受けた梅村がターンをして右足でシュートしたが相手がブロック。そのこぼれ球を松野が左足でワンタッチシュート。
- 3 2 分[日本] 犬塚の CK をニアで梅村が走り込んでヘディングシュート。

■ 2 s e t

- 3 分[日本] 自陣ミドルサードでの宇短選手のコントロールミスを手松野が拾い、ドリブルで運び、グラウンダーで前方の犬塚へパス。動きながらのコントロールから前にドリブルで運び、シュート。

■ 3 s e t

- 2 1 分[日本] 左サイドからの原良田のクロスボールに PA マーク付近に走り込んできた大久保が左足でワンタッチシュート。GK が弾いて、再び大久保の前に転がってきたボールを左足でワンタッチシュート。
- 3 0 分[日本] 相手陣中央でボールを受けた大久保がドリブルでボールを運び、DF 間に走り込んだ奥田にグラウンダーでスルーパス。動きながらのコントロールからシュート。

【交代】

1 s e t

- | | | | | | |
|-----------|----|-------|---|-----|-------|
| 1 6 分[宇短] | IN | NO.14 | ⇔ | OUT | NO.22 |
| 3 2 分[日本] | IN | 奥田 | ⇔ | OUT | 今井 |
| 3 2 分[宇短] | IN | NO.22 | ⇔ | OUT | NO.3 |

2 s e t

- | | | | | | |
|-----------|----|-------|---|-----|-------|
| 0 分[日本] | IN | 大野 | ⇔ | OUT | 吉川 |
| 0 分[宇短] | IN | NO.12 | ⇔ | OUT | NO.11 |
| 0 分[宇短] | IN | NO.23 | ⇔ | OUT | NO.7 |
| 1 2 分[宇短] | IN | NO.11 | ⇔ | OUT | NO.23 |

3 s e t

- | | | | | | |
|-----------|----|-------|---|-----|-------|
| 0 分[日本] | IN | 荻野 | ⇔ | OUT | 徳村 |
| 0 分[日本] | IN | 原良田 | ⇔ | OUT | 松野 |
| 0 分[日本] | IN | 吉川 | ⇔ | OUT | 佐藤 |
| 0 分[日本] | IN | 高木 | ⇔ | OUT | 結城 |
| 0 分[日本] | IN | 大久保 | ⇔ | OUT | 犬塚 |
| 0 分[宇短] | IN | NO.1 | ⇔ | OUT | NO.17 |
| 0 分[宇短] | IN | NO.14 | ⇔ | OUT | NO.2 |
| 1 6 分[日本] | IN | 松野 | ⇔ | OUT | 梅村 |
| 1 8 分[宇短] | IN | NO.2 | ⇔ | OUT | NO.8 |
| 2 5 分[宇短] | IN | NO.9 | ⇔ | OUT | NO.13 |

ゲームコンセプト

「全員守備・全員攻撃」

■攻撃コンセプト

- ① 中央突破とサイドからの攻撃
背後・ワンツー・クロスの入り方（3つの場所）
- ② 相手状況に応じたビルドアップ
1タッチ・サポート
- ③ パス・コントロールの質
自分の気持ち・思いをそのボールに込める

■守備コンセプト

- ① 1対1で勝つ（ボールとマークの同一視・粘り強く）
- ② 3つのゾーン（前線・中盤・ゴール前）での守備

■切り替え

攻撃→守備：ボールへの素早い寄／バランス

守備→攻撃：①同サイドに出ていく
②逆（中央）サイドに出ていく

ゲーム内容

宇都宮短期大学附属高校と対戦した。一試合を通してのボールポゼッション率は、日本47%、宇都宮短期大学附属高校53%と、それほど差はなかったが、シュート本数で日本が大きく上回った試合となった（日本が28本、宇短2本）。前半立ち上がり早々、横井のスルーパスに反応した犬塚が、相手DF間を抜け出してボールを受け、PAに侵入してシュート、先制点を奪った。攻撃の優先順位を意識しながら、GKを含めたビルドアップやミドルサードからアタッキングサードにかけて、ワンタッチ・ツータッチプレーで相手のプレッシャーを回避しながらテンポ良くボールを前進させ、チャンスも多く作ることができた。ポケットに侵入した福原からPA付近に走り込んできた梅村がシュートしたところ相手DFがブロック、こぼれ球を冷静に松野が左足のワンタッチシュートでゴールに押し込んだ。また、犬塚のCKからニアに走り込んできた梅村がヘディングシュートを決めた。動きの中から、セットプレーからと多くのシチュエーションから得点することができた。その反面、ラストパスやフィニッシュの質については課題が残った。守備に関しては、前線からの守備、中盤からの守備と相手状況やボール状況、ゲーム状況に応じて自分たちで声を出して意図的に奪おうとする場面や奪えた場面があった。また、相手のミスによりマイボールになることも多くあった。1対1の対応では、球際で強くいくことができ、奪い切る場面や、相手にプレッシャーを与えることでミスを誘発する場面も見受けられた。決定機を作らせることなく、試合終了となった。